

ヒューマンライフコード(東京都中央区)は、へその緒由来の間葉系細胞を、新型コロナウイルス感染症が重症化して発症する「急性呼吸窮迫症候群(ARDS)」の治療に活用する。肺で炎症性細胞が活性化されて組織が傷つく疾患で、重度の呼吸不全を招く。間葉系細胞はこの過剰炎症を抑える可能性がある。同治療薬開発は日本医療研究開発機構(AMED)に採択され、産学官連携も推進中だ。原田雅充社長に話を聞いた。

■ 現在の状況を教えてください。

へその緒でARDS治療

ヒューマンライフコード社長 原田 雅充氏



「第1相臨床試験で患者に投与する体制が整った。1人に投与して安全性をみる、確認できた次の患者に投与する」とい流れた。重篤な有害事項が発生しない限りまずは3例で終了する予定」

ARDS治療に効果がある。また通常必要ない白血球抗原(HLA)型の一一致も不要だ。過剰炎症下でもH

「第1相臨床試験で患者に投与する体制が整った。1人に投与して安全性をみる、確認できた次の患者に投与する」とい流れた。重篤な有害事項が発生しない限りまずは3例で終了する予定」

ARDS治療に効果がある。また通常必要ない白血球抗原(HLA)型の一一致も不要だ。過剰炎症下でもH

第1相試験で患者投与へ

「第1相臨床試験で患者に投与する体制が整った。1人に投与して安全性をみる、確認できた次の患者に投与する」とい流れた。重篤な有害事項が発生しない限りまずは3例で終了する予定」

ARDS治療に効果がある。また通常必要ない白血球抗原(HLA)型の一一致も不要だ。過剰炎症下でもH

「第1相臨床試験で患者に投与する体制が整った。1人に投与して安全性をみる、確認できた次の患者に投与する」とい流れた。重篤な有害事項が発生しない限りまずは3例で終了する予定」

ARDS治療に効果がある。また通常必要ない白血球抗原(HLA)型の一一致も不要だ。過剰炎症下でもH

「移植片対宿主病 強みを生かせます。(GVHD)について」

「意思決定が迅速な第1相臨床試験が完了している。骨髄移植後に発症する疾患を臨床試験までをもって、こちらも過剰炎症の原因。安全性が確認できており、2相試験の準備を進めている」

「創薬ベンチャーの敵の形を追求したい」

安定的なへその緒確保が課題

「移植片対宿主病 強みを生かせます。(GVHD)について」

「意思決定が迅速な第1相臨床試験が完了している。骨髄移植後に発症する疾患を臨床試験までをもって、こちらも過剰炎症の原因。安全性が確認できており、2相試験の準備を進めている」

「創薬ベンチャーの敵の形を追求したい」

記者の目

「移植片対宿主病 強みを生かせます。(GVHD)について」

「意思決定が迅速な第1相臨床試験が完了している。骨髄移植後に発症する疾患を臨床試験までをもって、こちらも過剰炎症の原因。安全性が確認できており、2相試験の準備を進めている」

「創薬ベンチャーの敵の形を追求したい」